

平成 16 年 1 月 30 日

豊島区文化政策懇話会「豊島区の文化政策に関する提言」 ～としま文化特区の実現に向けて～

本日 30 日（金）、豊島区文化政策懇話会（座長：福原義春企業メセナ協議会会長）は、2 年間にわたる審議をまとめ、「豊島区の文化政策に関する提言」として、高野之夫豊島区長に提出した。

文化によるまちづくりを進める豊島区は、その基本方針となる「文化政策推進プラン」を策定するにあたり、指針となる考え方や区の文化政策のあり方を検討するため、平成 14 年 9 月、文化芸術分野の専門家、学識経験者、区民等 12 名の委員からなる同懇話会を設置し、様々な角度から検討を重ねてきた。

その成果としてまとめられた本提言の基調をなす考え方は、従来の芸術分野に限定した枠組みを越え、文化を区民の日常的な生活や都市空間等と一体をなすものとして広く捉え、文化行政を展開する上でも、産業・福祉・教育・まちづくり・環境等、様々な分野の諸施策と連動させ、総合的な取り組みが必要であるとしている。そうした観点から、文化政策の目的と方法について、以下の 5 つの基本的な考えが示された。

- (1) あらゆる人々にとって魅力ある生活の場を提供する
- (2) 一過性・消費に終わらない質の高い芸術文化創造活動への展開をめざす
- (3) 幅広い分野と連携し区政全般を牽引するよう総合性を持たせる
- (4) 豊島区の固有性を生かしたまちづくりを進める（文化資源の再発見、編集、創造）
- (5) コンビビアルな（賑わいにあふれた）生活文化の空間を生み出す（面白みのある生活文化の空間づくり）

そして、この基本的な考えに基づき、「文化が牽引する都市の再生 ～ユニバーサルデザインを基調とする文化都市」を基本方針に掲げ、「としま文化特区構想」実現のための具体的な取り組みを「芸術文化創造環境づくり」「パブリックライフを楽しめる環境づくり」「豊島区らしい風景づくり」の 3 つの柱のもとに提言、「文化クラスター」という新しい考え方を打ち出し、これまでにない創造的で戦略的な文化政策の方向性を提示している。

区は本提言を受け、今年度内に「文化政策推進プラン」を策定する予定である。

◆としま文化特区構想

豊島区全体を様々な創造活動が行われ、享受され、まちづくりや産業とも結びついて発展していくような文化特区として位置づける。豊島区独自の特区であり、NPO と行政とのパートナーシップ、学校跡施設の活用など、区独自で対応可能な規制については独自に検討する。国に対し、規制緩和の要望等をする必要がある場合は「構造改革特区」としての申請も視野に入れていく。

◆文化クラスターの形成

文化クラスターとは文化特区を具現化するための核をなすものであり、区内の様々な文化・芸術活動や文化資源、産業集積等を有機的に結び、人的ネットワークの形成や協働を進め、新たな創造活動や産業活性化を連鎖的に起こす仕組み。（*クラスター：ブドウのような果物、果実の房の意）

例えば、豊島区は池袋を中心に劇場や映画館が集積しており、また多くの演劇人を輩出してきた「舞台芸術学院」等、演劇ゆかりの地であり、毎年「池袋演劇祭」を開催するなど「劇場都市」としての文化資源を多く有している。そうした文化資源（＝粒）を有機的につなぎ、学校跡施設等を活用した芸術創造の場づくり、芸術家による教育活動の拠点づくり、演劇業界との提携等、新たな仕掛けによりクラスター（＝房）を形成する。

演劇のほか、音楽・都市デザイン・都心の憩い空間・子ども・マンガ・伝統工芸・多文化共生等のクラスターが想定される。

◆「としま文化特区構想」実現のための3つの取り組みと具体的な施策

芸術文化創造環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆質の高い芸術文化創造環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・学校跡施設を活用した文化芸術創造の拠点づくり 文化NPOやアーティスト等の稽古場やアトリエとして開放、文化芸術のインキュベーター機能 ・舞台芸術プログラムの活発化 劇場都市のイメージづくり…池袋演劇祭、(仮称)東京フェスティバル、東京国際芸術祭等 ◆文化の担い手、推進者等の人材育成 区内4大学・各種専門学校等との連携、子どもたちへの芸術プログラム、文化ボランティアの育成等 ◆区政全般を牽引する文化政策の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・文化政策を統括する組織の設置 ・文化政策を推進する専門家の登用 総合プロデューサー、アートディレクター、アートマネージャー
パブリックライフを楽しめる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆広場・公園・通りを文化活動の場として活用する 音楽やアートパフォーマンス、交流の場としての活用、賑わいのある屋外空間 ◆文化施設（公・民）の機能の活性化と連携 芸術家と区民をつなぐワークショップやアウトリーチ活動、各施設共通プログラムの同時開催等
豊島区らしい風景づくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆コンビビアルな生活文化空間の創出 LRT導入構想、ユニバーサルデザインによる街並みづくり ◆文化資源の再発見、編集、創造 文化マップ・ホームページの作成、民間との協力による文化発信 ◆新たな文化産業の創造 文化と産業のリンク、文化関連のベンチャー企業、書店・印刷・出版等文化関連産業との連携

◆福原義春座長のコメント

区内の文化資源の調査にはじまり、それをどう生かすか、さらに文化クラスターの構造づくりなど、熱心な調査と討議を経て、提言をまとめることとなった。

私は文化とは人間がよりよく生きようとする行為の過程とその結果であると思っている。それが活性化したときに、住民はその成果を享受することができる。

今回の提言書はある部分はデータベースであり、ある部分は発見であり、あるいは抽象的な方向づけであり、またある部分は具体的な提言を含んでいる。豊島区がこの提言に示した事例を今後実践し、遅くも数年の内には将来あるべき姿のモデルとして、そのいくつかが実現し、豊島区の文化政策による地域づくりが目に見えるようになると、その勢いは加速度的になるだろうと願っている。

◆後藤和子・同懇話会専門部会長（埼玉大学助教授）のコメント

これからの行政にはより高度な内容と技術が要求される。文化政策を推し進めるにはなおさらのことである。創造的に政策を考え、市民や企業、NPO、アーティストなどの様々な専門家と連携することが求められている。また、都市計画やまちづくり、産業政策をはじめ、医療・福祉・教育などの分野との政策統合の視点も必要である。豊島区の文化と産業の集積の実態調査など、区の特徴をしっかりと調査したことも今回の委員会の成果である。

今後は、本提言並びに各委員の個別の提言を行政が汲み上げるべき点を取りだし、今後策定予定の「文化政策推進プラン」に生かしていくことを検討してほしい。

詳細：文化デザイン課